

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	高さ約 20m の訓練塔屋上で、自己確保をつけずに登はん訓練施設設定作業をした事例
3. 体験した事例の中心的要素	一度は確実に自己確保を設定したものの、階下に降りようとして自己確保を離脱したところで、再度作業を継続することになり、うっかり自己確保が設定されていると勘違いして、自己確保無しで危険区域に進入してしまった。
4. 体験した事例の原因・理由	自分では万全の施設設定と思っていたものが実はそうではないと指摘されたことに対する羞恥心と、訓練進行上早く設定を終わらせなければならないという焦りから、通常なら基本的な手順である自己確保の設定を忘れてしまった。

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20 年 4 月 22 日 午前 10 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：高さ約 20 m の訓練塔屋上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [ 救助（大会に向けた訓練） ]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	登はん訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[ 32 ]歳、勤続年数[ 10 ]年、現場経験年数[ 10 ]年、階級[ 消防士長 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ ]
○当事者B	年齢[ 31 ]歳、勤続年数[ 13 ]年、現場経験年数[ 13 ]年、階級[ 消防士長 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	懸垂ロープを設定	三つ打ちロープ50m
経過2	当事者A	自己確保を離脱	
経過3	当事者B	懸垂ロープにプルージックが設定されていない旨を当事者Aに伝える。	
経過4	当事者A	懸垂ロープにプルージックを設定しようとする。	
経過5	当事者A	自己確保なしで、フェンス際で作業を行った。	
経過6	当事者B	当事者Aが自己確保を設定していないことに気付き、注意する。	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

他隊(員)から適切な注意を受けた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ
-----

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

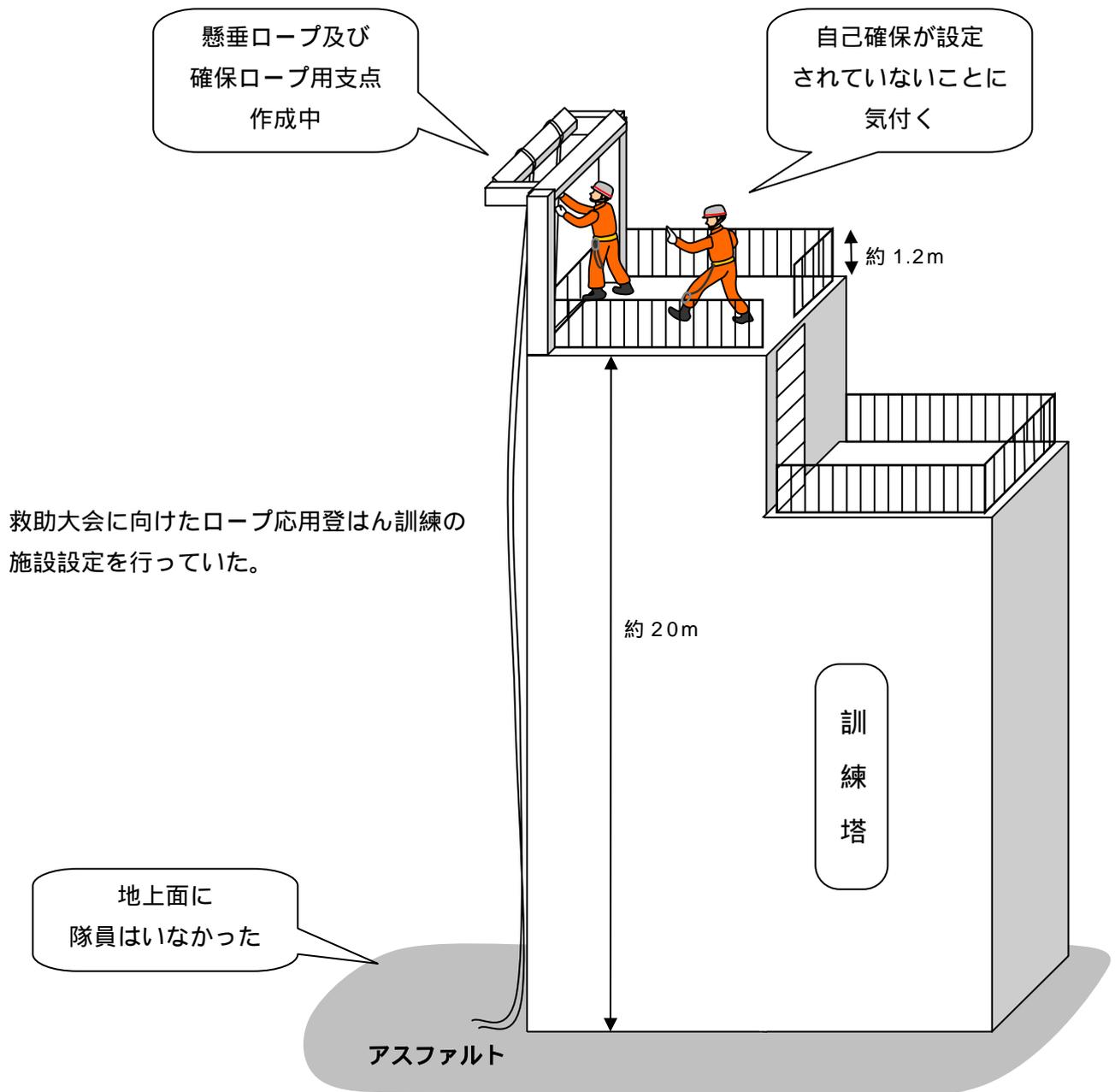
## ヒヤリハット事例

### 【概要】

高さ約20mの訓練塔屋上にて、隊員2名により懸垂ロープ設定中、自己確保ロープを設定せずに作業をしていたところ、もうひとりの隊員が気付き注意した事例。

### 【現場状況】

訓練塔屋上には、進入口を除いてフェンスが設置されているが、その高さは約1.2mと低く、少し身を乗り出せば墜落してしまう危険がある。地上面はアスファルト舗装されており、もし墜落すれば命の危険は避けられない。



・発生日時 :平成20年4月22日 午前10時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		消防士長 ・年齢 32 歳 ・勤続 10 年 ・現場 10 年 ・同様の活動:頻繁	消防士長 ・年齢 31 歳 ・勤続 13 年 ・現場 13 年 ・同様の活動:頻繁	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>登はん訓練開始</p> <p>高さ約20mの訓練塔屋上</p> </div> <div style="width: 60%; text-align: center;"> </div> <div style="width: 20%;"> <p>三つ打ちロープ50m</p> </div> </div>				

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？  
 ○直接的な原因:行動の実行に問題があった。  
 ・他隊(員)から適切な注意を受けた。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因  
 (心理・体調について)  
 ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。  
 ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。  
 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。  
 ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。